

スポーツウエルネス学学位プログラム(博士前期課程)

旧カリキュラム：R6年度入学者まで

1-1専門科目(必修)分野共通

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAS0603	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	1	1.0	1・2	春ABC	NT	山口 香, 安藤 梢, 辻 大士, 柴田 愛, 清野 隼	スポーツヘルスプロモーションおよびスポーツウエルネスマネジメントの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な方法論について概説する。各自の研究計画の実現に向けて、研究デザインと科学的方法の客観性を担保する方法基礎論を理解する。具体的には、文献や資料のオンライン検索の方法、論文作成法、基礎的な研究・分析手法について学ぶ。さらに、研究活動を行う際を守るべき倫理観や規範について概説し、研究倫理の遵守の重要性への理解を深める。	01EK002、OAS0605と同一履修は、本学位プログラムの2024年度以前の入学者に限る。本学位プログラム2025年度以降の入学者および他学位プログラム在籍者は、スポーツウエルネス学方法論(OAS0605)を履修のことオンライン(オンデマンド型)
OATS011	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	1	2.0	1・2	春AB	水7,8	山口 香, 柴田 愛, 久野 譜也, 笠野 英弘, 田邊 解, 安藤 梢, 清野 隼, 辻 大士, 澤江 幸則	現代社会におけるスポーツプロモーションとヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。スポーツとヘルスの相関的・相乗的な関係の基本理念とその哲学について、人間存在の生理的・心理的・社会的な特質との関係から概説する。また、現代社会における長寿化人生、ハイテク・情報化生活等の生活変容に注目しながら、人間存在の現代的課題を取り上げ、そこにおけるスポーツ文化享受による健康開発の可能性を環境世界、社会・文化生活、諸個人のライフスタイルやライフステージとの関係から概説し、エコロジーと共生を希求する21世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。	履修は本学位プログラムの在籍生に限る※2024年度以前の入学者用(2025年度の入学生は、スポーツウエルネス学概論を履修のこと)01EK001と同一。対面
OATS021	スポーツ健康研究方法論I	2	1.0	2	春ABC	随時	山口 香, 柴田 愛, 久野 譜也, 笠野 英弘, 安藤 梢, 清野 隼, 辻 大士	研究テーマを設定し、研究計画の大綱を立案した上で、研究テーマ届を提出することを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究について担当教員の指導のもとに先行文献を参照しながら、研究テーマを設定、研究計画の骨組みを立案し、研究テーマ届を提出する。	2024年度以前の入学者用01EK003と同一。対面

1-2専門科目(選択)分野共通

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS032	スポーツ健康研究方法論II	2	1.0	2	秋A	随時	山口 香, 柴田 愛, 久野 譜也, 笠野 英弘, 安藤 梢, 清野 隼, 辻 大士	学位論文中間発表会にて、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関して、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもと、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。	2024年度以前の入学者用01EK004と同一。対面
OATS033	スポーツ健康研究方法論III	2	1.0	2	春A	随時	山口 香, 柴田 愛, 久野 譜也, 笠野 英弘, 安藤 梢, 清野 隼, 辻 大士	学位論文中間発表会にて、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関して、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもと、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。	9月末修了予定者用2024年度以前の入学者用01EK005と同一。対面

## 2-1-1専門科目(選択)スポーツプロモーション領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS110	スポーツプロモーション論特講	1	2.0	1・2	秋AB	水7,8	笠野 英弘	スポーツの高度化と大衆化の発展は、社会に対してプラスの機能だけでなく、マイナスの機能も生じさせている。スポーツが社会現象として存在する限り、スポーツもまた社会のあり方によって規定されることから、本講義では、社会の変化のなかでスポーツの考え方やあり方を学習し、これからの進むべき方向について考える視点を学ぶ。 また、現代社会におけるスポーツでは、人びとが生涯にわたってスポーツを享受し、その質的な充実と向上が求められており、「官」が主導してスポーツを「振興」させることから、「民」からスポーツを「プロモーション」(前進、推進)していくことが必要とされている。そこで、本講義では、生涯スポーツ論を踏まえたスポーツプロモーション論について学習し、現代スポーツの現状と課題を学ぶ。	O1EK101と同一。 対面
OATS111	スポーツプロモーション論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	笠野 英弘	スポーツプロモーションの視点から現代スポーツの現状と課題を理解し、各自の興味関心に基づく研究テーマを検討する。その研究テーマを踏まえ、先行研究の検討や分析枠組みを設定し、研究計画を立案する。また、先行研究や他の受講者の研究に対する建設的かつ批判的な考察・討議を通して、研究に求められる力を高めていく。	履修は本学位プログラムの在學生に限る。 O1EK112と同一。 対面
OATS112	スポーツプロモーション論演習2	2	2.0	1・2	春AB	火7,8	笠野 英弘	スポーツプロモーションの視点からみた現代スポーツの現状と課題(研究テーマ)の背景について、先行文献のレビューを通して整理し、発表と討議によって学習を深める。また、先行研究の理論的読解を踏まえて、各自の研究の分析枠組みを検討する。それらを通して、理論的かつ実践的に有意義な研究を遂行していく。	履修は本学位プログラムの在學生に限る。 O1EK113と同一。 対面
OATS113	スポーツプロモーション論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	笠野 英弘	学生の現職経験から導かれるスポーツ現場の課題をスポーツプロモーションの視点から捉え直し、課題解決に向けた調査・分析を計画するとともに実践し、その結果の批判的考察を通して、課題解決に向けた仕組み(制度)の提案を行う。	履修は本学位プログラムの在學生に限る。 O1EK105と同一。 対面
OATS120	スポーツイベント論特講	1	2.0	1・2	春ABC	集中	高橋 義雄, 森村 國仁, 小野 寛幸, 勝 真理	スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントと地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能を探究する。スポーツイベントの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を概説する。これに基づいて、現代社会におけるスポーツイベントのポジティブ/ネガティブな地域形成作用を分析し、そこから現代社会におけるスポーツイベント政策の社会的役割を分析する。また、プロフェッショナルスポーツの発展過程を分析し、その社会及び地域形成に関わる意味と機能について概説する。	OATS757「スポーツビジネス開発論」と同一 O1EK106と同一。 4/11, 4/18, 6/6, 6/13, 7/18 対面

## 2-1-2専門科目(選択)スポーツマネジメント領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS220	高度競技マネジメント論特講	1	2.0	1・2	春AB	金7,8	山口 香	国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナルリズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について理解する。国際競技力開発に関する世界的状況を概括し、我が国における問題と課題を明らかにする。そして、国際競技力開発の仕組みを「発掘・育成・強化・支援」の各開発段階における物的・人的・文化的資源のシステム化として概説し、システム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について講義する。	OATS224「スポーツシステムマネジメント論特講」と同一 O1EK206と同一。 対面(オンライン併用型)
OATS221	高度競技マネジメント論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	山口 香	オリンピックやW杯など重要な国際大会においてアスリートやチームが最高のパフォーマンスを発揮するために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として理解する。 オリンピックやW杯などの重要な国際大会においてアスリートやチームが最高のパフォーマンスを発揮するために具体的な事例に対応する国際競技スポーツマネジメントのシミュレーションを様々な角度から行う。	OATS225「スポーツシステムマネジメント論演習1」と同一 O1EK214と同一。 対面
OATS222	高度競技マネジメント論演習2	2	2.0	1・2	秋AB	火7,8	山口 香	スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略等からわが国のスポーツの施策や目指す方向を理解する。また、学校運動部活動の地域移行への課題と地域スポーツ活動の役割などの現状と課題を整理し、スポーツマネジメントの観点から検討していく。	OATS226「スポーツシステムマネジメント論演習2」と同一 O1EK215と同一。 対面
OATS223	高度競技マネジメント論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	山口 香	学生の現職経験から導かれる国際競技大会における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係から見た課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションする。	OATS227「スポーツシステムマネジメント論実習」と同一 O1EK210と同一。 対面

OATS230	プロスポーツマネジメント論特講	1	2.0	1・2	秋A 秋C	木7,8 集中	安藤 梢	野球、サッカー、バスケットボールなど多くのプロスポーツが進展している。プロスポーツにおけるマネジメントの在り方や課題について理解する。アスリートのトレーニング・育成、クラブ運営、リーグ運営、地域との連携、などのプロスポーツにおけるマネジメントについて具体的な取り組みや課題について議論していく。また、女子プロリーグの在り方について論じると共に、男子プロリーグにはない課題や推進策についても探究していく。	集中講義10:00~1/9、1/16 OATS234「トップスポーツ論特講」と同一対面(オンライン併用型)
OATS231	プロスポーツマネジメント論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	安藤 梢	プロスポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略等から我が国のプロスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際のプロスポーツリーグおよびクラブの活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、スポーツ文化やビジネスを形成する上での礎となるためのプロスポーツ推進策についてプロスポーツマネジメントの観点から検討していく。	OATS235「トップスポーツ論演習1」と同一対面
OATS232	プロスポーツマネジメント論演習2	2	2.0	1・2	春AB	木7,8	安藤 梢	プロスポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄録することにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課題を解決するための研究的取り組みについて理解する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略等から我が国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際のプロスポーツリーグおよびクラブの活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、スポーツ文化やビジネスを形成する上での礎となるためのプロスポーツ推進策についてプロスポーツマネジメントの観点から検討していく。	OATS236「トップスポーツ論演習2」と同一対面
OATS233	プロスポーツマネジメント論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	安藤 梢	学生の現職経験や体験から導かれるプロスポーツリーグとクラブにおける具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジメント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そして、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、その方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメント戦略を構築していく。	OATS237「トップスポーツ論実習」と同一対面
OATS264	スポーツマネジメント研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時	山口 香, 安藤 梢	現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。	O1EK216と同一。対面
OATS265	スポーツマネジメント研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時	山口 香, 安藤 梢	現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。	9月末修了予定者用O1EK217と同一。対面

2-2専門科目(関連)スポーツプロモーション分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS317	多様なスポーツとインクルージョン	1	1.0	1・2	春C	火7,8	佐藤 貴弘, 齊藤 まゆみ, 松井 崇, ラクワール ランディープ	近年、スポーツは多様な人々が多様なスタイル・目的で楽しむための理解、環境構築が進んでいる。一方で、多様なスポーツとインクルージョンには課題も散見される。この授業では、国内外の多様なスポーツの現状や目指すべきインクルージョンのあり方について考える。	対面(オンライン併用型)
OATS319	トップアスリートのコーチング・トレーニング	1	1.0	1・2	秋C	金7,8	榎本 靖士, 小井土 正亮, 川村 卓, 木越 清信, 福田 崇	世界のトップをめざす国際競技力向上のフレーム(枠組み)を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチ及びトレーナーなどのサポートスタッフに必要な資質やスキルを学ぶ。オリンピックやワールドカップなどでチームやアスリートが高いパフォーマンスを発揮するためのコーチングやトレーニングの理論と実際を学ぶ。世界の強豪国・地域の視点、競技特性の視点、世界の動向など、さまざまな観点から、トップレベルのコーチやスタッフに求められる役割や資質について考える。また、トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング計画、トレーニング内容およびスポーツ科学の活用方法について学ぶ。スポーツ医学やアスレティックトレーニング理論、体力トレーニング理論、コーチング理論など最新の知見を提供しつつ、長期育成やベストパフォーマンスについて議論する。	対面(オンライン併用型)
OATS320	スポーツの哲学と倫理	1	1.0	1・2	秋C	木7,8	深澤 浩洋, 成瀬 和弥, 坂本 拓弥, 勝田 隆, 浅川 伸	我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理・教育の重要性や必要性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて論ずることができる。また、我が国の競技スポーツにおける価値やルール、インテグリティなどの現状と今後の課題について説明することができることを目標とする。オリンピックやW杯などの国際的競技大会を取り上げ、国内外の競技組織の役割、ドーピングやフェアプレイ、ダイバーシティ&インクルージョン、スポーツ文化や教育の諸課題などについて講義する。	対面(オンライン併用型)

OATS321	健康スポーツ運動科学論	1	1.0	1・2	春C	金7,8	雨宮 怜, 國部 雅大, 松井 崇, 小野 誠司, 下山 寛之	運動・スポーツと健康の関係について多面的に学習し、身体的・精神的な健康を維持・増進のための運動・スポーツの意義とその効果について理解を深めることを目的とする。心身の健康を維持・増進するためには運動・スポーツ、休養、栄養などに関する幅広い知識が必要である。 本授業では、スポーツ・運動が心身に与える影響を、スポーツ心理学、生化学、疫学、栄養学、医学の観点からそれぞれの専門家が概説し、健康増進の科学的理解の深化と研究への応用力の構築を目的とする。	対面(オンライン併用型)
OATS322	スポーツ文化論	1	1.0	1・2	春BC	集中	菊 幸一, 仲澤 眞	前半は、現代社会におけるスポーツ文化の基本概念を理解し、歴史社会学的な観点から現代スポーツ文化の社会的構造を分析するとともに、スポーツ文化が抱える課題について学習する。また、グローバル化したスポーツ文化の功罪や国際比較を通じて、その背景にある社会的需要・供給関係を探究し、現代社会における文化としてのスポーツプロモーションのあり方について講ずる。 後半は、プロスポーツ、女性スポーツ、メディアによるスポーツプロデュース、シニアスポーツ、大学における競技スポーツなどの事例を取り上げ、スポーツ文化への多様な視座について講ずる。	スポーツウエルネス学位プログラム(博士前期課程)の在学生に限る。 5/16, 6/27 10:00~ 対面
OATS351	コミュニティスポーツプロモーション論特講	1	1.0	1・2	秋B	金7,8 集中	水上 博司	わが国のコミュニティ・スポーツの政策史と研究史に振り返り、どのような実践や研究が蓄積されてきたのか、その社会的・政策的意義と実践及び研究の課題を理解する。とくに今後のコミュニティ・スポーツプロモーションを構想・実践するために総合型地域スポーツクラブやユーススポーツ(学校運動部)およびスポーツによる地域活性化の課題と将来像についてスポーツ空間論、市民社会論、社会運動論、デモクラシー論、社会関係資本論を参考にしながら講義をする。	履修は本学位プログラムの在籍生に限る。 OATS353「コミュニティスポーツプロモーション論」と同一、11/13(金)休講→12/12(土)9:30~ 西暦偶数年度開講。 対面

3-1-1 専門科目(選択)ヘルスプロモーション領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS410	ヘルスプロモーション論特講	1	2.0	1・2	春AB	火7,8	久野 譜也	健康増進政策とは何かを理解した上で、国、県、市町村、企業等における健康政策の現状と課題を把握する。さらに健康政策の具体的な策定方法における基礎的理解を深める。我が国及び諸外国における運動を中心としたヘルスプロモーションのための政策課題について概説し、その目的、内容、方法等の特徴を明らかにするとともに、我が国における今後のヘルスプロモーションの政策課題の方向性について講義する。	OATS758「健康都市づくり論」と同一 01EK401と同一 対面
OATS411	ヘルスプロモーション論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	久野 譜也	ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツ(運動)によるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。	01EK412と同一。 対面
OATS412	ヘルスプロモーション論演習2	2	2.0	1・2	通年	随時	久野 譜也	ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。また、感染症、心身疾患あるいはドーピング等のスポーツにおける健康阻害状況に関する具体的事例も取り上げ、その発症のメカニズムを分析し、その原因と対策について検討する。	01EK413と同一。 対面
OATS413	ヘルスプロモーション論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	久野 譜也	地域もしくは職域における健康づくりの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、発表できる能力を養成する。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験を重視し、そこから導かれる実践的な課題を取り上げ、それをシステムの課題に洗練するとともに、現職やそれと関わるフィールドワークを通じて、課題解決に志向したシステムモデルのデザインを実習する。	01EK405と同一。 対面
OATS420	健康開発プログラム論特講	1	2.0	1・2	秋A 秋AB	金7,8 集中	柴田 愛	行動科学の考え方を応用して、健康行動(主に、身体活動や運動)を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。健康行動を推進させるプログラム開発に活用されている行動科学の理論やモデルの基礎的な考え方について理解を深めるとともに、それを応用した様々な実践例について学ぶ。	01EK406と同一。 集中講義10:00~、10/24、11/14 対面
OATS421	健康開発プログラム論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	柴田 愛	健康増進のための効果的な支援策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。効果的な健康開発プログラムに関する近年の具体的事例を取り上げ、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルについて学習する。	01EK414と同一。 対面
OATS422	健康開発プログラム論演習2	2	2.0	1・2	春AB	火7,8	柴田 愛	健康増進のための効果的な支援策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。我が国及び諸外国において実践されている健康開発プログラムの中から自らが興味のある特定のテーマを決めて、その有効性と課題について文献的に検討・発表する(ディレクトリートリング)。これらの分析をもとに、学生それぞれの実践的な課題について演習する。	01EK415と同一。 対面
OATS423	健康開発プログラム論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	柴田 愛	効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的技能を学ぶ。学生の実験経験から導かれる健康開発プログラムの課題を取り上げ、現職域及び関連組織・機関等をフィールドにして、課題解決に向けた情報収集、健康開発プログラムの計画と実践、評価について実習する。	01EK410と同一。 対面

OATS464	ヘルスプロモーション 研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時	久野 譜也, 柴田 愛	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシミュレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。	01EK416と同一。 対面
OATS465	ヘルスプロモーション 研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時	久野 譜也, 柴田 愛	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシミュレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。	9月末修了予定者用 01EK417と同一。 対面

3-1-2専門科目(選択)ストレスマネジメント領域

科目番号	科目名	授業 方法	単位数	標準履 修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATS520	コミュニティメンタル ヘルス論特講	1	2.0	1・2	春AB	木7,8	辻 大士	社会的要因や国・地域の環境とメンタルヘルスとの関わりを学習する。さらに、それらの要因について、現状把握一課題設定一手がかり発見一実践一介入一効果検証一プログラム改善を円滑に進める、一連のマネジメントサイクルを学習する。	01EK521と同一。 対面
OATS521	コミュニティメンタル ヘルス論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	辻 大士	メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因を探索し、その要因の改善を図るための具体的なマネジメント方略を学習することで、各現場への実践・介入の力がかりを得る。コミュニティメンタルヘルス論特講の内容と自身の興味に基づき研究構想や計画を立案し、その研究を進める上での情報収集、データ収集、統計解析、考察、研究発表についての実践的な技能について演習する。	対面
OATS522	コミュニティメンタル ヘルス論演習2	2	2.0	1・2	秋AB	木7,8	辻 大士	学生が興味をもつ、メンタルヘルスやその社会的決定要因、健康格差に関するテーマで順に発表し、討議しあうことで学習を深める。国、地域、職域、学校などの各集団における、抱える課題の実態や解決方略についての先行文献をレビューし、それらを踏まえた各自の研究計画を発表する。それにより、新規性、社会的意義、実現可能性を兼ねそろえた優れた研究テーマを設定し、その遂行について演習する。	対面
OATS523	コミュニティメンタル ヘルス論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	辻 大士	メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因を探索し、その改善を図るための基礎知識と実践的技能を学ぶ。また、学生の現職経験から導かれる実践的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、それに基づく課題解決方略の計画、実践、評価について実習する。	01EK525と同一。 対面
OATS564	ストレスマネジメント システム研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時	辻 大士	学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的なガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。	01EK516と同一。 対面
OATS565	ストレスマネジメント システム研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時	辻 大士	学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的なガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする。修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。	9月末修了予定者用 01EK517と同一。 対面

## 3-2専門科目(関連)ヘルスプロモーション分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS611	生活機能増進法論特講	1	1.0	1・2	秋C	火7,8	渡部 厚一, 門間 貴史, 河野 禎之, 山田 実, 小崎 恵生	心身特性を把握し、運動機能、生命維持機能や認知機能などの向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする。生活機能病(運動器、各種臓器、認知機能の障害)に焦点を当て、生涯にわたって生活機能の向上(寝たきりの予防)法の開発やその指導法に関して学習する。臨床スポーツ医学的アプローチを含む。	01EK621と同一。 対面(オンライン併用型)
OATS614	健康支援の理論と実践	1	1.0	1・2	春C	木7,8	大藏 倫博, 木塚 朝博, 麻見 直美, 中田 由夫, 片岡 千恵	国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。集団や個人を対象として、各種の疾患や健康段階、ライフステージにおける課題解決に向けたさまざまな健康支援方法の理論と実践について概説するとともに、その具体的事例について講義する。	01EK624と同一。 対面(オンライン併用型)
OATS616	スポーツ健康統計学特講	1	1.0	1・2	春C	集中	角田 憲治	スポーツ・健康科学分野において頻用される統計解析の理論と実際の分析方法について解説する。統計学の初心者の理解を促進するために、デモデータを用いながら、演習・実習形式の授業を取り入れつつ具体的に学ぶ。	集中講義10:00~ 履修は本学位プログラムの在籍生に限る、7/4、7/11 01EK607と同一。 対面
OATS617	質的研究基礎論	1	1.0	1・2	秋AB	集中	橋爪 祐美, 青柳 健隆	スポーツ・ヘルスプロモーション分野における諸課題について分析・考察する資質を養うため、質的研究の全体像と基礎的な分析手法を学び、設定した研究上の問いに応じた質的な調査・分析スキルの基礎を形成することを目的とする。そのために、まず質的研究が求められる背景・経緯等と質的研究の全体像について学習する。その上で、スポーツ・ヘルスプロモーション分野の研究にて、活用されている質的調査法(インタビューや自由記述式アンケートなどのデータ収集方法、グラウンデッド・セオリーやKJ法などのデータ分析手法)を取り上げ、受講者の課題等をもとにビギナーレベルのデータ収集および分析法、さらに質的研究結果の応用について学習する。	集中講義10/31(3限分13:15~17:00):青柳(原則、対面。事前に教務辻まで要相談)、11/21(2限分10:00~12:40):青柳(原則、対面。事前に教務辻まで要相談)、12/5(5限分10:00~17:00):橋爪(対面のみ)履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK631と同一。 対面(オンライン併用型)
OATS618	量的研究基礎論	1	1.0	1・2	春C	水7,8	中田 由夫, 甲斐 裕子, 笹井 浩行	スポーツ・ヘルスプロモーション分野における諸課題について分析・考察する資質を養うため、量的研究の全体像と基礎的な分析手法を学び、設定した研究上の問いに応じた量的な調査・分析スキルの基礎を形成することを目的とする。そのために、まず量的研究が求められる背景と量的研究の全体像について学習する。その上で、スポーツ・ヘルスプロモーション分野の研究にて、活用されている量的調査法を取り上げ、受講者の課題等をもとに基礎レベルのデータ収集および分析法、さらに結果の応用について学習する。	対面(オンライン併用型)
OATS619	ストレスマネジメント論	1	1.0	1・2	春B	集中	水上 勝義	ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。ストレスの概念を理解し、ストレスがもたらす生体反応やストレスに関連した健康問題について学習する。さらに健康促進のための個人と社会におけるストレスマネジメントシステムについて学習する。	10:00~、5/30、6/13 対面

新カリキュラム：R7年度入学者～

専門科目(必修)分野共通 (R7年度入学者～)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAS0605	スポーツウエルネス学方法論	1	1.0	1・2	春ABC	NT	山口 香, 柴田 愛, 辻 大士, 安藤 梢, 清野 隼	スポーツヘルスプロモーションおよびスポーツウエルネスマネジメントの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な方法論について概説する。各自の研究計画の実現に向けて、研究デザインと科学的方法の客観性を担保する方法基礎論を理解する。具体的には、文献や資料のオンライン検索の方法、論文作成法、基礎的な研究・分析手法について学ぶ。さらに、研究活動を行う際を守るべき倫理観や規範について概説し、研究倫理の遵守の重要性への理解を深める。	オンライン(オンデマンド型)
OATS012	スポーツウエルネス学概論	1	2.0	1・2	春AB	水7,8	久野 譜也, 山口 香, 柴田 愛, 笠野 英弘, 田邊 解, 安藤 梢, 清野 隼, 辻 大士, 澤江 幸則	現代社会におけるスポーツプロモーションおよびヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。スポーツとヘルスの相関的・相乗的な関係の基本理念とその哲学について、人間存在の生理的・心理的・社会的な特質との関係から概説する。また、現代社会における長寿化人生、ハイテク・情報化生活等の生活変容に注目しながら、人間存在の現代的課題を取り上げ、そこにおけるスポーツ文化享受による健康開発の可能性を環境世界、社会・文化生活、諸個人のライフスタイルやライフステージとの関係から概説し、エコロジーと共生を希求する21世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的効果を上げるための政策課題について講義する。	履修は本学位プログラム内の在籍生に限る 対面

1-1スポーツヘルスプロモーション分野 専門科目(必修)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS022	スポーツヘルスプロモーション研究方法論I	2	1.0	2	春ABC	随時	山口 香, 柴田 愛, 笠野 英弘, 安藤 梢, 辻 大士	研究テーマを設定し、研究計画の大綱を立案した上で、研究テーマ届を提出することを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究について担当教員の指導のもとに先行文献を参照しながら、研究テーマを設定、研究計画の骨組みを立案し、研究テーマ届を提出する。	履修は本学位プログラム・スポーツヘルスプロモーション分野の在籍者に限る 主専攻必修科目。 対面

1-2スポーツヘルスプロモーション分野 専門科目(選択)領域共通

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS034	スポーツヘルスプロモーション研究方法論II	2	1.0	2	秋A	随時	山口 香, 柴田 愛, 笠野 英弘, 安藤 梢, 辻 大士	学位論文中間発表会にて、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関して、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもと、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。	履修は本学位プログラム・スポーツヘルスプロモーション分野の在籍者に限る。 対面
OATS035	スポーツヘルスプロモーション研究方法論III	2	1.0	2	春A	随時	山口 香, 柴田 愛, 笠野 英弘, 安藤 梢, 辻 大士	学位論文中間発表会にて、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関して、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもと、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。	9月末修了予定者用履修は本学位プログラム・スポーツヘルスプロモーション分野の在籍者に限る。履修は、「スポーツヘルスプロモーション研究方法論I」単位取得者に限る。 対面

1-3 スポーツヘルスプロモーション分野 専門科目(選択)スポーツプロモーション領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS110	スポーツプロモーション論特講	1	2.0	1・2	秋AB	水7,8	笠野 英弘	スポーツの高度化と大衆化の発展は、社会に対してプラスの機能だけでなく、マイナスの機能も生じさせている。スポーツが社会現象として存在する限り、スポーツもまた社会のあり方によって規定されることから、本講義では、社会の変化のなかでスポーツの考え方やあり方を学習し、これからの進むべき方向について考える視点を学ぶ。 また、現代社会におけるスポーツでは、人びとが生涯にわたってスポーツを享受し、その質的な充実と向上が求められており、「官」が主導してスポーツを「振興」させることから、「民」からスポーツを「プロモーション」(前進、推進)していくことが必要とされている。そこで、本講義では、生涯スポーツ論を踏まえたスポーツプロモーション論について学習し、現代スポーツの現状と課題を学ぶ。	01EK101と同一。 対面
OATS111	スポーツプロモーション論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	笠野 英弘	スポーツプロモーション的視点から現代スポーツの現状と課題を理解し、各自の興味関心に基づく研究テーマを検討する。その研究テーマを踏まえ、先行研究の検討や分析枠組みを設定し、研究計画を立案する。また、先行研究や他の受講者の研究に対する建設的かつ批判的な考察・討議を通して、研究に求められる力を高めていく。	履修は本学位プログラムの在学生に限る。 01EK112と同一。 対面
OATS112	スポーツプロモーション論演習2	2	2.0	1・2	春AB	火7,8	笠野 英弘	スポーツプロモーションの視点からみた現代スポーツの現状と課題(研究テーマ)の背景について、先行文献のレビューを通して整理し、発表と討議によって学習を深める。また、先行研究の理論的読解を踏まえて、各自の研究の分析枠組みを検討する。それらを通して、理論的かつ実践的に有意義な研究を遂行していく。	履修は本学位プログラムの在学生に限る。 01EK113と同一。 対面
OATS113	スポーツプロモーション論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	笠野 英弘	学生の現職経験から導かれるスポーツ現場の課題をスポーツプロモーションの視点から捉え直し、課題解決に向けた調査・分析を計画するとともに実践し、その結果の批判的考察を通して、課題解決に向けた仕組み(制度)の提案を行う。	履修は本学位プログラムの在学生に限る。 01EK105と同一。 対面
OATS120	スポーツイベント論特講	1	2.0	1・2	春ABC	集中	高橋 義雄, 森村 國仁, 小野 寛幸, 勝 真理	スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントと地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能を探究する。スポーツイベントの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を概説する。これに基づいて、現代社会におけるスポーツイベントのポジティブ/ネガティブな地域形成作用を分析し、そこから現代社会におけるスポーツイベント政策の社会的役割を分析する。また、プロフェッショナルスポーツの発展過程を分析し、その社会及び地域形成に関わる意味と機能について概説する。	0ATS757「スポーツビジネス開発論」と同一 01EK106と同一。 4/11, 4/18, 6/6, 6/13, 7/18 対面
OATS166	スポーツ・プロモーション研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時	山口 香, 安藤 梢	現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究の視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。	対面
OATS167	スポーツ・プロモーション研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時	山口 香, 安藤 梢	現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究の視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。	9月末修了予定者用 対面

OATS224	スポーツシステムマネジメント論特講	1	2.0	1・2	春AB	金7.8	山口 香	国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナルイズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について理解する。国際競技力開発に関する世界的状況を概括し、我が国における問題と課題を明らかにする。そして、国際競技力開発の仕組みを「発掘・育成・強化・支援・キャリア」の各開発段階における物的・人的・文化的資源のシステム化として概説し、システム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について講義する。	対面
OATS225	スポーツシステムマネジメント論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	山口 香	オリンピックやW杯など重要な国際大会においてアスリートやチームが最高のパフォーマンスを発揮するために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として理解する。オリンピックやW杯などの重要な国際大会においてアスリートやチームが最高のパフォーマンスを発揮するために具体的な事例に対応する国際競技スポーツマネジメントのシミュレーションを様々な角度から行う。	対面
OATS226	スポーツシステムマネジメント論演習2	2	2.0	1・2	秋AB	火7.8	山口 香	スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略等からわが国のスポーツの施策や目指す方向を理解する。また、学校運動部活動の地域移行への課題と地域スポーツ活動の役割などの現状と課題を整理し、スポーツマネジメントの観点から検討していく。	対面
OATS227	スポーツシステムマネジメント論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	山口 香	学生の現職経験から導かれるスポーツ組織・団体における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係から見た課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションする。	対面
OATS234	トップスポーツ論特講	1	2.0	1・2	秋A 秋C	木7.8 集中	安藤 梢	トップスポーツの現場で実際に行われている競技活動、トレーニング、チーム運営、組織マネジメント等について、現役競技者の視点を踏まえながら理論的に整理・考察することを目的とする。競技者個人のパフォーマンスのみならず、チーム・クラブ・競技環境との関係性を多角的に捉え、トップスポーツの実態理解を深める	集中授業 10:00~ 1/9、1/16 対面
OATS235	トップスポーツ論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	安藤 梢	トップスポーツに関する解決すべき研究課題を各自で設定し、関連する先行研究や文献を整理した上で、研究デザインの構築を行うことを目的とする。あわせて、スポーツ基本法やスポーツ立国戦略等を踏まえ、我が国のトップスポーツが今後進むべき方向性について検討する。さらに、実際のトップスポーツにおけるマネジメントや活動の現状を分析し、そこに内在する課題を明らかにすることで、スポーツ文化やスポーツビジネスを形成・発展させる基盤としてのトップスポーツ推進策を、スポーツマネジメントの観点から考察していく。	対面
OATS236	トップスポーツ論演習2	2	2.0	1・2	春AB	木7.8	安藤 梢	トップスポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、文献の抄読を通して先行研究の到達点と課題を整理することを目的とする。抄読を通じて、今後解決すべき研究課題を明確にした上で、それぞれの課題に対してどのような研究的アプローチや方法が用いられてきたのかを理解する。また、スポーツ基本法やスポーツ立国戦略等を踏まえ、我が国のスポーツが今後進むべき方向性について検討するとともに、実際のトップアスリートのマネジメントおよびクラブの活動状況を題材として、そこに内在する課題を整理する。これらを通して、スポーツ文化やスポーツビジネスの形成・発展の基盤となるトップスポーツ推進策について、スポーツマネジメントの観点から考察していく。	対面
OATS237	トップスポーツ論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	安藤 梢	学生の現職経験や体験から導かれるトップスポーツリーグやクラブにおける具体的な成功例や失敗例を分析することで、マネジメント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そして、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、その方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメント戦略を構築していく。	対面

1-4 スポーツヘルスプロモーション分野 専門科目(選択)ヘルスプロモーション領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS420	健康開発プログラム論特講	1	2.0	1・2	秋A 秋AB	金7,8 集中	柴田 愛	行動科学の考え方を応用して、健康行動(主に、身体活動や運動)を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。健康行動を推進させるプログラム開発に活用されている行動科学の理論やモデルの基礎的な考え方について理解を深めるとともに、それを応用した様々な実践例について学ぶ。	01EK406と同一。 集中講義10:00~ 10/24、11/14 対面
OATS421	健康開発プログラム論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	柴田 愛	健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。効果的な健康開発プログラムに関する近年の具体的な事例を取り上げ、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルについて学習する。	01EK414と同一。 対面
OATS422	健康開発プログラム論演習2	2	2.0	1・2	春AB	火7,8	柴田 愛	健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。我が国及び諸外国において実践されている健康開発プログラムの中から自らが興味のある特定のテーマを決めて、その有効性と課題について文献的に検討・発表する(ディレクトリーディング)。これらの分析をもとに、学生それぞれの実践的な課題について演習する。	01EK415と同一。 対面
OATS423	健康開発プログラム論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	柴田 愛	効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的スキルを学ぶ。学生の現職経験から導かれる健康開発プログラムの課題を取り上げ、現職域及び関連組織・機関等をフィールドにして、課題解決に向けた情報収集、健康開発プログラムの計画と実践、評価について実習する。	01EK410と同一。 対面
OATS466	ヘルス・プロモーション研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時	柴田 愛, 辻 大士	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシミュレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。	履修は本学位プログラム・スポーツヘルスプロモーション分野の在籍者に限る。 対面
OATS467	ヘルス・プロモーション研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時	柴田 愛, 辻 大士	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシミュレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。	9月末修了予定者用、履修は本学位プログラム・スポーツヘルスプロモーション分野の在籍者に限る。 対面
OATS520	コミュニティメンタルヘルス論特講	1	2.0	1・2	春AB	木7,8	辻 大士	社会的要因や国・地域の環境とメンタルヘルスとの関わりを学習する。さらに、それらの要因について、現状把握→課題設定→手がかり発見→実践・介入→効果検証→プログラム改善を円滑に進める、一連のマネジメントサイクルを学習する。	01EK521と同一。 対面
OATS521	コミュニティメンタルヘルス論演習1	2	1.0	1・2	通年	随時	辻 大士	メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因を探索し、その要因の改善を図るための具体的なマネジメント方略を学習することで、各現場への実践・介入の手がかりを得る。コミュニティメンタルヘルス論特講の内容と自身の興味に基づき研究構想や計画を立案し、その研究を進める上での情報収集、データ収集、統計解析、考察、研究発表についての実践的な技能について演習する。	対面
OATS522	コミュニティメンタルヘルス論演習2	2	2.0	1・2	秋AB	木7,8	辻 大士	学生が興味をもつ、メンタルヘルスやその社会的決定要因、健康格差に関するテーマで順に発表し、討議しあうことで学習を深める。国、地域、職域、学校などの各集団における、抱える課題の実態や解決方略についての先行文献をレビューし、それらを踏まえた各自の研究計画を発表する。それにより、新規性、社会的意義、実現可能性を兼ねそろえた優れた研究テーマを設定し、その遂行について演習する。	対面
OATS523	コミュニティメンタルヘルス論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	辻 大士	メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因を探索し、その改善を図るための基礎知識と実践的スキルを学ぶ。また、学生の現職経験から導かれる実践的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、それに基づく課題解決方略の計画、実践、評価について実習する。	01EK525と同一。 対面

1-5 スポーツヘルスプロモーション分野 専門科目 (関連)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS317	多様なスポーツとインクルージョン	1	1.0	1・2	春C	火7,8	佐藤 貴弘, 齊藤 まゆみ, 松井 崇, ラクワール ランディープ	近年、スポーツは多様な人々が多様なスタイル・目的で楽しむための理解、環境構築が進んでいる。一方で、多様なスポーツとインクルージョンには課題も散見される。この授業では、国内外の多様なスポーツの現状や目指すべきインクルージョンのあり方について考える。	対面(オンライン併用型)
OATS319	トップアスリートのコーチング・トレーニング	1	1.0	1・2	秋C	金7,8	榎本 靖士, 小井土 正亮, 川村 卓, 木越 清信, 福田 崇	世界のトップをめざす国際競技力向上のフレーム(枠組み)を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチ及びトレーナーなどのサポートスタッフに必要な資質やスキルを学ぶ。オリンピックやワールドカップなどでチームやアスリートが高いパフォーマンスを発揮するためのコーチングやトレーニングの理論と実際を学ぶ。世界の強豪国・地域の視点、競技特性の視点、世界の動向など、さまざまな観点から、トップレベルのコーチやスタッフに求められる役割や資質について考える。また、トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング計画、トレーニング内容およびスポーツ科学の活用方法について学ぶ。スポーツ医学やアスレティックトレーニング理論、体力トレーニング理論、コーチング理論など最新の知見を提供しつつ、長期育成やベストパフォーマンスについて議論する。	対面(オンライン併用型)
OATS320	スポーツの哲学と倫理	1	1.0	1・2	秋C	木7,8	深澤 浩洋, 成瀬 和弥, 坂本 拓弥, 勝田 隆, 浅川 伸	我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理・教育の重要性や必要性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて論ずることができる。また、我が国の競技スポーツにおける価値やルール、インテグリティなどの現状と今後の課題について説明することができることを目標とする。オリンピックやW杯などの国際的競技大会を取り上げ、国内外の競技組織の役割、ドーピングやフェアプレイ、ダイバーシティ&インクルージョン、スポーツ文化や教育の諸課題などについて講義する。	対面(オンライン併用型)
OATS321	健康スポーツ運動科学論	1	1.0	1・2	春C	金7,8	雨宮 怜, 國部 雅大, 松井 崇, 小野 誠司, 下山 寛之	運動・スポーツと健康の関係について多面的に学習し、身体的・精神的な健康を維持・増進のための運動・スポーツの意義とその効果について理解を深めることを目的とする。心身の健康を維持・増進するためには運動・スポーツ、休養、栄養などに関する幅広い知識が必要である。本授業では、スポーツ・運動が心身に与える影響を、スポーツ心理学、生化学、疫学、栄養学、医学の観点からそれぞれの専門家が概説し、健康増進の科学的理解の深化と研究への応用力の構築を目的とする。	対面(オンライン併用型)
OATS322	スポーツ文化論	1	1.0	1・2	春BC	集中	菊 幸一, 仲澤 真	前半は、現代社会におけるスポーツ文化の基本概念を理解し、歴史社会学的な観点から現代スポーツ文化の社会的構造を分析するとともに、スポーツ文化が抱える課題について学習する。また、グローバル化したスポーツ文化の功罪や国際比較を通じて、その背景にある社会的需要・供給関係を探究し、現代社会において講ずるのスポーツプロモーションのあり方について講ずる。後半は、プロスポーツ、女性スポーツ、メディアによるスポーツプロデュース、シニアスポーツ、大学における競技スポーツなどの事例を取り上げ、スポーツ文化への多様な視座について講ずる。	スポーツウエルネス学学位プログラム(博士前期課程)の在学生に限る。 5/16, 6/27 10:00~ 対面
OATS353	コミュニティスポーツプロモーション論	1	1.0	1・2	秋B	金7,8 集中	水上 博司	わが国のコミュニティ・スポーツの政策史と研究史に振り返り、どのような実践や研究が蓄積されてきたのか、その社会的・政策的意義と実践及び研究の課題を理解する。とくに今後のコミュニティ・スポーツプロモーションを構想・実践するために総合型地域スポーツクラブやユーススポーツ(学校運動部)およびスポーツによる地域活性化の課題と将来像についてスポーツ空間論、市民社会論、社会運動論、デモクラシー論、社会関係資本論を参考にしながら講義をする。	西暦偶数年度開講。 11/13(金)休講→ 12/12(土)9:30~ 対面
OATS611	生活機能増進法論特講	1	1.0	1・2	秋C	火7,8	渡部 厚一, 門間 貴史, 河野 禎之, 山田 実, 小崎 恵生	心身特性を把握し、運動機能、生命維持機能や認知機能などの向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする。生活機能病(運動器、各種臓器、認知機能の障害)に焦点を当て、生涯にわたって生活機能の向上(寝たきりの予防)法の開発やその指導法に関して学習する。臨床スポーツ医学的アプローチを含む。	01EK621と同一。 対面(オンライン併用型)
OATS614	健康支援の理論と実践	1	1.0	1・2	春C	木7,8	大藏 倫博, 木塚 朝博, 麻見 直美, 中田 由夫, 片岡 千恵	国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。集団や個人を対象として、各種の疾患や健康段階、ライフステージにおける課題解決に向けたさまざまな健康支援方法の理論と実践について概説するとともに、その具体的な事例について講義する。	01EK624と同一。 対面(オンライン併用型)
OATS616	スポーツ健康統計学特講	1	1.0	1・2	春C	集中	角田 憲治	スポーツ・健康科学分野において頻用される統計解析の理論と実際の分析方法について解説する。統計学の初心者理解を促進するために、デモデータを用いながら、演習・実習形式の授業を取り入れつつ具体的に学ぶ。	集中講義10:00~ 履修は本学位プログラムの在籍生に限る、7/4, 7/11 01EK607と同一。 対面

OATS617	質的研究基礎論	1	1.0	1・2	秋AB	集中	橋爪 祐美, 青柳 健隆	スポーツ・ヘルスプロモーション分野における諸課題について分析・考察する資質を養うため、質的研究の全体像と基礎的な分析手法を学び、設定した研究上の問いに応じた質的な調査・分析スキルの基礎を形成することを目的とする。そのために、まず質的研究が求められる背景・経緯等と質的研究の全体像について学習する。その上で、スポーツ・ヘルスプロモーション分野の研究にて、活用されている質的調査法(インタビューや自由記述式アンケートなどのデータ収集方法、グラウンデッド・セオリーやKJ法などのデータ分析手法)を取り上げ、受講者の課題等をもとにビギナーレベルのデータ収集および分析法、さらに質的研究結果の応用について学習する。	集中講義10/31(3限分13:15~17:00):青柳(原則、対面。事前に教務まで要相談)、11/21(2限分10:00~12:40):青柳(原則、対面。事前に教務まで要相談)、12/5(5限分10:00~17:00):橋爪(対面のみ)履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK631と同一。 対面(オンライン併用型)
OATS618	量的研究基礎論	1	1.0	1・2	春C	水7,8	中田 由夫, 甲斐 裕子, 笹井 浩行	スポーツ・ヘルスプロモーション分野における諸課題について分析・考察する資質を養うため、量的研究の全体像と基礎的な分析手法を学び、設定した研究上の問いに応じた量的な調査・分析スキルの基礎を形成することを目的とする。そのために、まず量的研究が求められる背景と量的研究の全体像について学習する。その上で、スポーツ・ヘルスプロモーション分野の研究にて、活用されている量的調査法を取り上げ、受講者の課題等をもとに基礎レベルのデータ収集および分析法、さらに結果の応用について学習する。	対面(オンライン併用型)
OATS619	ストレスマネジメント論	1	1.0	1・2	春B	集中	水上 勝義	ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。ストレスの概念を理解し、ストレスがもたらす生体反応やストレスに関連した健康問題について学習する。さらに健康促進のための個人と社会におけるストレスマネジメントシステムについて学習する。	10:00~、5/30、6/13 対面

2-1 スポーツウエルネスマネジメント分野 専門科目(必修)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS711	研究デザイン演習	2	2.0	1	秋C 夏季休業中	水7,8 集中	久野 譜也, 田邊 解, 清野 隼, 澤江 幸則, 塚尾 晶子, 安藤 章, 神田 昌幸	スポーツ・ウエルネス・まちづくりにおける実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツ・ウエルネス・まちづくりによるシステムやデザインの編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。	9/26-9/27 対面
OATS751	スポーツウエルネス医科学	1	1.0	1・2	春B	集中	田邊 解, 山田 実, 塚尾 晶子	スポーツとウエルネスの密接な関係性について、最先端の健康・医学研究の知見や先進事例の成果を参考にしながら理解を深める。また、スポーツや身体活動が心身の健康、ライフパフォーマンス又は個人のwell-beingに与える効果を、ライフステージ別に把握することで、多角的かつ包摂的な視点でマネジメントを行える能力の向上を目指す。	5/16, 5/30 対面
OATS752	スポーツウエルネスビジネスに関わる法務・会計・ファイナンス	1	1.0	1・2	秋A	金7,8	石田 恵美	多様なステークホルダーが存在するスポーツビジネス・ウエルネスビジネスにおいて、イノベーターとして事業に関わろうとする者には必要不可欠となる法律、会計、ファイナンス(資金調達)の基礎を身につけるとともに、地方創生・まちづくりの視点も含めて実務的に必要な知識習得を目指す。	対面
OATS753	スポーツウエルネス起業法	1	1.0	1・2	秋C	火7,8	山本 拓真	スポーツおよびウエルネス業界やスタートアップ業界における先進事例から、最先端の起業の知見や先進事例の成果を参考にしながら起業に関する理解を深める。また、経済界の第一線で活躍する起業家をゲスト講師として迎えての講義・演習を行うことで、視野の広いマネジメント能力を身につける。	対面
OATS754	実践的都市データ&医療介護データ活用論	1	1.0	1・2	秋B	金7,8	田邊 解, 塚尾 晶子, 安藤 章, 山本 拓真	ウエルネス・まちづくり分野で収集される定量的・定性的調査データを活用する基礎知識及び実践事例を学習し、データを活用して課題解決を具体化する基礎能力を養う。また、科学論文作成を想定して、データの収集から集計、分析、及び結果の解釈までの一連の手順を演習する。	対面
OATS755	スポーツウエルネスにおける生成AI活用法	1	1.0	1・2	秋BC	集中	岡田 幸彦, 山本 亨輔	スポーツウエルネス分野においても、生成AIを活用した調査、企画、文書作成などが求められる時代になった。本授業では、文章生成AIを中心に、AI活用の際のリテラシー、効果的・効率的なAI活用、人間ならではの付加価値について学ぶ。文章生成AIを活用した調査演習と企画演習もを行い、成果をプレゼンテーションで発表する。	12/12, 12/19 対面
OATS756	エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策	1	1.0	1・2	春C	金7,8	清野 隼, 鈴木 岳	ハイパフォーマンス領域におけるアスリートへの支援策について、スポーツ科学に関連する最先端のエビデンスや、先進事例を基に理解を深める。また、ハイパフォーマンス支援策とライフパフォーマンスのパスウェイ構築の観点から、エビデンスベースのマネジメントを実践できる能力を高めることを目指す。	対面
OATS757	スポーツビジネス開発論	1	2.0	1・2	春ABC	集中	高橋 義雄, 森村 國仁, 勝 真理, 小野 寛幸	日本国内外の知見と融合させるスポーツビジネスのエキスパートらとの対話から新規のスポーツビジネスが創造されるリアルな現場を講義室に再現する。受講生のスポーツビジネスを開発する素質や能力だけでなく、組織として新規ビジネス開発のための組織的なシステム構築能力を身につけることを目的とする。	OATS120「スポーツイベント論特講」と同一 4/11, 4/18, 6/6, 6/13, 7/18 対面
OATS758	健幸都市づくり論	1	2.0	1・2	春AB	火7,8	久野 譜也, 神田 昌幸, 安藤 章	このまちに住むと自然と健康になれる環境(ハード&ソフト)について、国内外の事例及びエビデンスを基に解説し、今後の我が国の少子高齢化がさらに加速する現状から今後の我が国の健康都市づくりの進むべき方向性を考察できる力を養成する。	対面

OATS761	研究デザイン方法論I	2	1.0	2	通年	随時	久野 譜也, 田邊 解, 清野 隼	研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出することを目標とする。 スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する研究について担当教員の指導のもとに先行文献を参照しながら研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出する。	対面
OATS762	研究デザイン方法論II	2	1.0	2	通年	随時	久野 譜也, 田邊 解, 清野 隼	学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。 スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する特定課題研究報告書・修士論文の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。 スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。	3月修了予定者 対面
OATS763	研究デザイン方法論III	2	1.0	2	通年	随時	久野 譜也, 田邊 解, 清野 隼	学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。 スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する特定課題研究報告書・修士論文の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。 スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。	9月修了予定者 対面
OATS764	研究デザイン方法論IV	2	2.0	2	通年	随時	久野 譜也, 田邊 解, 清野 隼	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、特定課題研究報告書・修士論文を作成することを目標とする。スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した特定課題研究報告書・修士論文の作成を指導する。	3月修了予定者 対面
OATS765	研究デザイン方法論V	2	2.0	2	通年	随時	久野 譜也, 田邊 解, 清野 隼	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、特定課題研究報告書・修士論文を作成することを目標とする。スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した特定課題研究報告書・修士論文の作成を指導する。	9月修了予定者 対面

2-2 スポーツウエルネスマネジメント分野 専門科目(関連)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATS811	ウエルネスマーケティング	1	1.0	1・2	春A	木7,8	増本 岳, 松江 英夫, 米澤 麻子	最先端のマーケティング技術や実際のマーケティング事例の講義、演習を通じて、健康関心層だけではなく、健康無関心層を動かす方法への理解を深め、社会課題解決に向けた事業創造力の向上を目指す。	対面
OATS821	課題解決型実習I	3	1.0	1	夏季休業中	集中	久野 譜也, 田邊 解, 清野 隼	スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する国内外の取り組みの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、プレゼンテーションでできる能力を養成する。学生の現職経験を重視し、経験から導かれる実践的な課題を取り上げ、これらの課題を系統的課題に洗練させるとともに、現職やそれと関わるフィールドワークを通じて、課題解決に志向したシステムモデルのデザインについて実習する。	8/22(土), 8/23(日) 対面
OATS822	課題解決型実習II	3	1.0	2	通年	随時	久野 譜也, 田邊 解, 清野 隼	スポーツ・ウエルネス・まちづくりに関する国内外の取り組みの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、プレゼンテーションでできる能力を養成する。学生の現職経験を重視し、経験から導かれる実践的な課題を取り上げ、これらの課題を系統的課題に洗練させるとともに、現職やそれと関わるフィールドワークを通じて、課題解決ならびに社会実装ができるモデルのデザインを実習する。	対面
OATS831	健康無関心層を動かす行動変容技術	1	2.0	1・2	秋AB	火7,8	久野 譜也, 塚尾 晶子, 鈴木 岳, 増本 岳, 溝田 友里	健康分野以外にも多様な分野で求められている人の行動変容理論を理解した上で、受講者における課題において効果が得られる解決策を策定できる能力を身につける力を養成できることを目指す。	対面
OATS832	スポーツ価値創造論: スポーツで人と社会を動かす	1	2.0	1・2	秋AB	水7,8	大井 義洋	スポーツで「人を動かす」仕組みをつくる。これがスポーツビジネスである。言い換えれば、競技を中心に、メディアやマーケティング、チケットなどのビジネスファンクションを掛け合わせ、スポーツイベントを構築し、より多くの人を動かすことがスポーツビジネスである。本講義ではその各種ファンクションを理解し、市場全方位的なスポーツイベントをプロデュースするための基礎を身につけることを主眼に置く。一方で、スポーツを通して人を動かすことは、社会の意識を変え、人々の行動を変えることにもつながる。健康増進、コミュニティ活性化、地域創生、社会課題の解決など、その帰結は多岐にわたる。そんな「スポーツの力」を理解し、スポーツビジネスによって拡張・発展させるノウハウも同時に学ぶ	対面